

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K11083

研究課題名（和文）健康ニーズに基づく企業の健康施策形成から評価における合意形成プロセスモデルの構築

研究課題名（英文）Construction of Consensus Building Process Model for the Formulation and Evaluation of Corporate Health Initiatives Based on Health Need

研究代表者

望月 由紀子（YUKIKO, MOCHIZUKI）

東邦大学・看護学部・准教授

研究者番号：70440253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、健康ニーズに基づいた健康施策立案から評価における合意形成プロセスを明確化し、産業保健師の支援方法を検討することを目的とする。具体的には、健康施策立案から評価における一連の合意形成プロセスの構成要素を抽出し、健康施策形成から評価に関与した事例へのインタビュー調査により困難や構造を明確にし、産業保健師の介入・支援方法を検討する。当該研究を遂行することで、企業の健康文化の創出と定着に貢献するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織的に展開する一次予防を戦略的に介入・支援することが可能になる。合意形成プロセスを構造化することができれば、健康施策を戦略的に行う体制づくりが可能にできる。

関係部門との協働を可視化した企業の健康文化の創出と定着に貢献できる。健康施策に関わる関連部門から理解・合意形成を得ること、関係者間の強みを見極め意図的な働きかけが必要である。組織の中でのマネジメント力や専門性の確立に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to structure the consensus-building process in health policy formation and evaluation based on health needs. Specifically, it verifies a hypothetical model of the consensus-building process from health policy formation to evaluation, considering process management. The study involves extracting the components of the consensus-building process in health policy formation and evaluation, conducting interviews with cases involved in health policy processes, and exploring intervention and support methods for occupational health nurses. The ultimate goal is to contribute to creating and sustaining a healthy organizational culture within companies.

研究分野：公衆衛生看護、産業保健

キーワード：健康ニーズ 合意形成 プロセス マネジメント

1. 研究開始当初の背景

日本の人口減少の局面のなかにおいて、労働生産人口の減少は著しいことが社会課題として問題視されている。(国立社会保障・人口問題研究所, 2017)。健康寿命の延伸のために、企業が主体となり個人の健康に投資する環境を整備するとともに、新たな健康関連サービスの市場を創出する取り組みが開始されており、企業の重要な資源である労働者が健康で安全に働ける労働環境を整えることが指摘されている(森, 2018)。計画的な健康施策の取り組みを行うためには、健康施策を最終承認する立場の者(最終決定責任者)を置き、管理監督者や関係者間の意識や知識を向上させること、産業保健専門職が関与して組織の理解を得て実施することが重要である。しかし、関係者間との合意形成には困難があるという課題が明らかにされている(新里ら, 2019)が、健康施策を推進するためには、企業における合意形成の特徴や合意形成を要する範囲、合意形成プロセス、役割システムを明確にすることが望まれる。これまでの研究では、健康施策の機能(湯沢, 1997)や能力(村山ら, 1996; 大野ら, 2000)、事業を開発していくプロセス(村山ら, 1998; 宮崎, 2003; 吉岡ら, 2003; 吉岡ら, 2007)等の展開ツールが散見するが、健康施策を推進するプロセスは明らかにされていない。

健康ニーズに基づく健康施策の推進には、健康施策形成から評価における段階で組織からの理解を得て、産業保健サービスに対する価値を高める必要である。そのため、健康施策形成から評価にむけた合意形成プロセスの構造化を明らかにするは急務である。ひいては、長期的な視点に立った企業の健康文化の創出と定着にも貢献できると考える。

2. 研究の目的

本研究は、健康ニーズに基づいた健康施策形成から評価における合意形成プロセスを構造化するため、プロセス・マネジメントの視点から合意形成プロセスを可視化し、産業保健師の支援方法を明らかにする。

健康施策形成から評価における一連の合意形成プロセスの構成要素を抽出する。

健康施策形成から評価に関与した事例へのインタビュー調査により合意形成の困難、プロセスを明らかにする。

上記のプロセスにおいて、産業看護職の介入・支援方法を明らかにする。

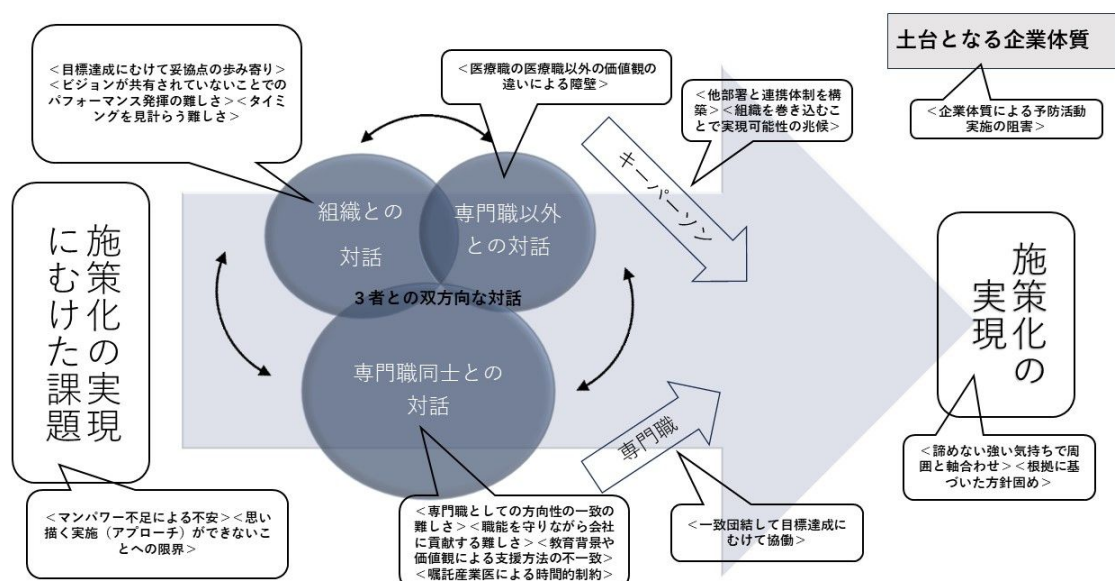
3. 研究の方法

企業において健康ニーズを施策化するプロセスに関わった経験がある産業保健師へインタビュー調査を実施した。

産業保健師が所属する事業所の規模は、産業医が常勤雇用されている企業、産業医が非常勤で雇用されている企業とし、保健師の所属機関の産業保健体制に偏りが出ない様にした。選定理由として、実務経験5年以上として、自治体のキャリアラダー参考(厚生労働省, 2016)にして、健康課題を解決するために自立して対応し、組織へは働きかけることができるレベルとした。

4. 研究成果

(1) 健康施策の実現に向けた保健師の困難

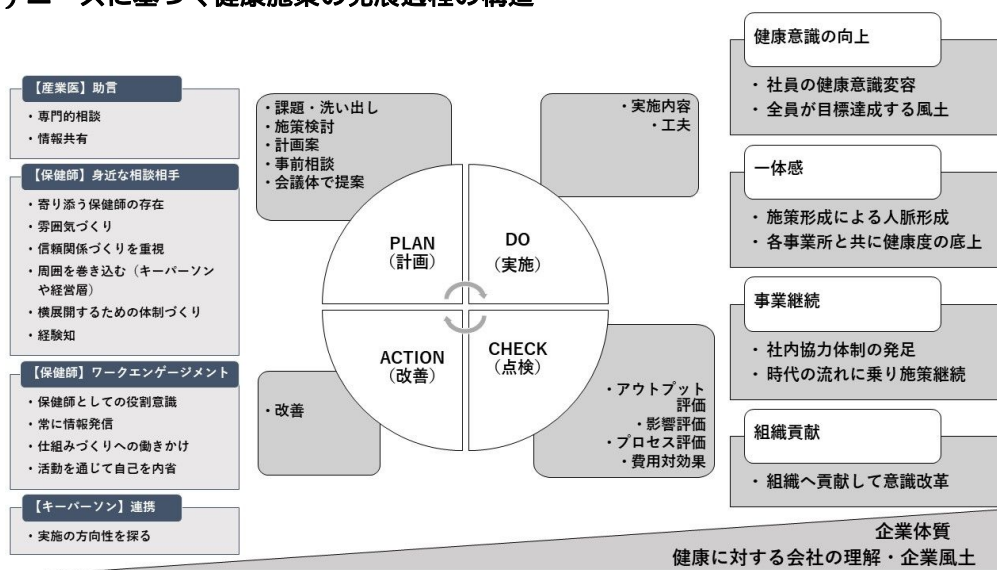


ニーズに基づく施策化を実現するにむけての課題としては、マンパワー不足による不安や、思い描く実施（アプローチ）ができないことへの限界があることが語られた。また、企業の体質を守るにより、予防活動が進まない苦悩や、異なる職種ではアプローチ方法に違いがあることなど、企業体質による予防活動実施の阻害するという状況があった。組織との対話において、ビジョンが共有されていないことでのパフォーマンス発揮の難しさや、タイミングを見計らう難しさ、医療職と医療職以外の価値観の違いによる障壁がみられた。専門職の対話において、産業医が囑託の場合は囑託産業医による時間的制約があった。産業保健師同士の認識をすり合わせて、企業のなかで職能を守り貢献する難しさが語られた。産業保健師と看護職の対話においても、専門職としての方向性の一致の難しさや、教育背景や価値観による支援方法の不一致がみられた。

施策化の実現にむけた促進要因として、同職種からの＜客観的な意見や励ましを得ることで、目標達成に向かう＞ことで一致団結して目標達成に向けて協働に繋がっていた。また、他部署と連携体制を構築を行い、組織を巻き込むことでの実現可能性の兆候が語られた。

施策化の実現にむけた困難について、保健師同士が諦めない強い気持ちで周囲と軸合わせをすることや、根拠に基づいた方針固めであることが語られた。

(2) ニーズに基づく健康施策の発展過程の構造



産業保健師は、P（計画）D（実施）C（評価）A（改善）のプロセスに基づいて、企業の健康ニーズに基づく施策化を実現していた。P（計画）の立案では、【課題の洗い出し】【施策案検討】【計画案】【計画案の事前相談】【会議体で提案】【組織化】を行い、D0（実施）においては、【実施内容】や【実施内容の工夫】がされていた。C（評価）においては、【アウトプット評価】【影響評価】【プロセス評価】【費用対効果】から評価を検討していた。Act（改善）策を検討していた。企業において産業保健師は、【身近な相談相手である医療職】であり、産業保健師は【横のつながり】を大切にしていた。産業保健師の仕事に対してのポジティブで充実している【ワーク・エンゲイジメント】が高い状態であり、【産業医】との関わりや【キーパーソン】を行い社内での【一体感】が生みだしながら【事業継続】させていた。

(3) 健康施策の発展過程と産業保健師の働きかけ

**企業の健康ニーズに基づく施策化への
発展過程と産業保健師の働きかけ**

東邦大学
東邦大学看護学部/大学院看護学研究科
公衆衛生看護学研究室 望月由紀子

〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20
Mail: yukiko.mochizuki@med.toho-u.ac.jp

日本学術振興会 科研費

「健康ニーズに基づく企業の健康施策形成から評価における合意形成プロセスモデルの構築」

望月由紀子

産業保健師

身近な相談相手である医療職

- ・寄り添う産業保健師の存在
- ・信頼関係作りを重要視

横のつながり

- ・キーパーソン/経営層を巻き込む
- ・横展開するための体制づくり
- ・産業医からの助言
- ・専門的助言をもらう
- ・産業保健師の経験値/ノウハウ

ワークエンゲージメント

- ・活動を通じて自己を内省
- ・産業保健師からの情報発信
- ・産業保健師から仕組み作りへの働きかけ
- ・産業保健師としての役割意識

Point **課題の提示**
産業保健師から会社に提案し働きかけること
課題を発信し続けることは重要である

7

産業医

産業医

- ・産業医へ情報共有
- ・専門的相談

Point **一枚岩になる**
専門職同士、一致団結して目標達成に向けて協働していく

キーパーソン

キーパーソン

- ・キーパーソンとの連携
- ・キーパーソンと協同の方向性を探る

Point **他部署との連携体制の構築**
共通認識がある管理職の存在や、使命感がある事務職との対等な協力関係、組織を巻き込むことでの実現の可能性

8

本研究は、産業保健の経験豊かな産業保健師 11 名へのインタビュー調査結果によるものである。人生 100 年時代、健康意識を向上させるためには、戦略的に一次予防を推進させる必要がある。ニーズに合わせた健康施策を組織的に展開する上では、組織の特徴を把握しながら多職種と協働することが必要であり、高度な実践活動である。

一人職場で相談する人がいない、産業保健の経験が少ない、施策化したことがない等、多くの産業保健師の質向上の一助になれば幸いである。また、こちらのパンフレットは今後 HP などで公開予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 望月由紀子、湯浅晶子、猪股久美
2. 発表標題 日本の産業保健専門職による健康施策形成過程に影響する要因に関する文献レビュー
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅 晶子、望月 由紀子、猪股 久美
2. 発表標題 健康ニーズに基づく企業の健康施策の合意形成プロセスおよびその課題と困難に関する文献レビュー
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	湯浅 晶子 (Yuasa Akiko) (80804864)	東京女子医科大学・看護学部・講師 (32653)	
研究分担者	猪股 久美 (Inomata Kumi) (90464784)	帝京平成大学・ヒューマンケア学部・准教授 (32511)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------